



第1回カーボンニュートラル研究セミナー 講演要旨

カーボンニュートラル社会の実現を迫られるようになった背景

—UNFCCC の交渉経緯を踏まえて—

講演者 天野正博 名誉教授

講演日時 2022 年 5 月 6 日 14:45～16:15

主催 早稲田大学先端社会科学研究所

共催 早稲田大学環境経済・経営研究所、早稲田大学高等研究所、早稲田大学スマート社会
技術融合研究機構

1. 気候変動の現状

- ✓ 気候変動に関する政府間パネル(IPCC)第 5 次評価報告書(AR5)では、「適応」重視へ移行しようとしたが、各国首脳の間で「緩和」重視に変更された。気候変動は信頼度(90-95%)で表現されていた。
- ✓ AR6 では気候変動は避けられないものとされ、気候変動に適応しつつ気温の上昇緩和の努力をする。パリ協定批准国が締約時に提出した温室効果ガスの国別削減目標(NDC: Nationally Determined Contributions)では、今世紀末までに 2℃あるいは 1.5℃目標を達成できないことから、各国は NDC の見直しをすることを求められた。
大気中の CO₂ 濃度は 400ppm を超え、気候変動は予測の信頼度の問題ではなく現実に生じていることが明らかとなり、2℃ (海面は上昇を抑えるのであれば 1.5℃)目標が設定される。
海洋の酸性化により海洋の植物プランクトンは非活性化するため、CO₂ 吸収は陸域で強化する必要がある。
- ✓ AR5 では 4 種類の放射強制力の仮定を置いた RCP シナリオ(代表濃度経路シナリオ:Representative Concentration Pathways)に基づく将来予測を行うことにより、地球システムの変化を検証した。<https://www.jccca.org/ipcc/about/index.html>
- ✓ AR6 では「オーバーシュートの確信度は高い(パリ協定の目標は超えてしまっている)」ことが明らかにされた。

2. 地球環境問題と国連対応

1972 国際連合人間環境会議(ストックホルム) 環境と経済は両立しない。

1987「環境と開発に関する世界委員会」(ブルトランド)報告書 環境と経済を両立させ

る持続可能な開発概念を、地球環境問題を解決する考え方として提示

1992 地球サミット

持続可能性の概念、地域から地球規模に視野を拡大、貧困と環境破壊の関係が示される、途上国の地球環境問題に対する理解を得られた。国家主権だけによらない市民参加が可能に

1997 京都議定書

2003 人間の安全保障委員会報告書：安全保障の対象を国家でなく「人々」とする。

国家よりも人間中心であること

国家の安全に対する脅威とは必ずしも考えられてこなかった要因を人々の安全への脅威に含めること(感染症も)

国家のみならず多様な担い手がかかわってくることを(NGO)

人々が自らを守るための能力強化が必要であること

2015 持続可能な開発サミット→SDGs

パリ協定→各国独自の NDC (Nationally Determined Contributions)

2021 日本は 2050 カーボンニュートラルを目指した新たな NDC を国連に提出(甘い見通しの見直し)

3. 気候変動問題の解決に向けた交渉の枠組み

- ✓ クレジットは短期的な視野に基づくものであり、将来世代の視点に欠ける。(経済メカニズムだけでは解決できない)
世代間の公平性、過去に排出した国とこれから発展のため排出せざるを得ない国との世代内での公平性。
- ✓ 地球環境問題に熱心な国とそうでない国があるので、国家の主権を超えたグローバルガバナンスが必要。
- ✓ 国連気候変動枠組条約(UNFCCC)/COP は全会一致による決定。環境 NGO も会議に参加するので、NGO の主張も各国に届く。一国でも異論があれば、合意は見送るという仕組み。

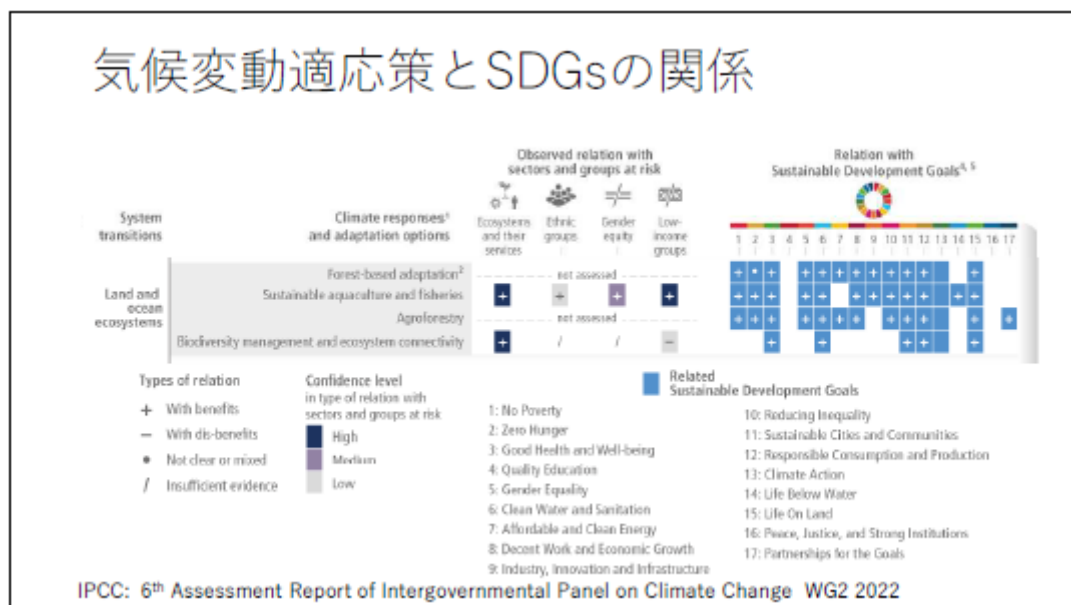
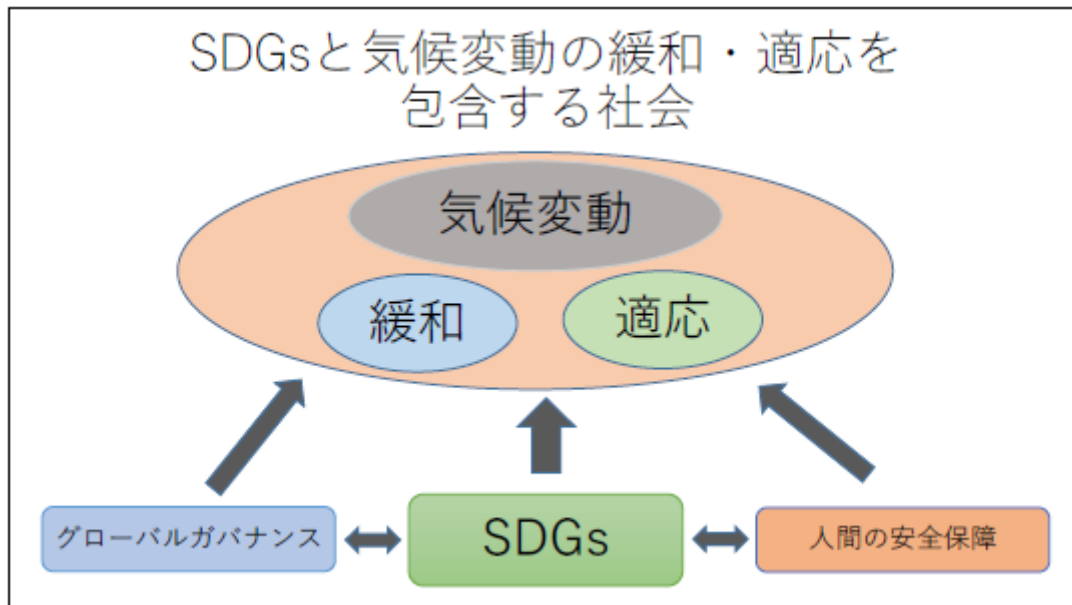
4. UNFCCC をグローバルガバナンスと人間の安全保障と SDGs による総合的アプローチで補強する国連の取り組み

SDGs の 3 つの要素

経済成長：置き去りにする国がないように格差是正、貧困が環境破壊を引き起こす

インクルーシブ：社会開発、ニーズには対処+文化社会の多様性

環境保護（保全）



まとめ

- ✓ 個別技術の開発に頼るだけではなく、総合的な SDGs のアプローチが必要である。
- ✓ 気候変動のような地球環境問題においては、国際的な枠組みの中で、人々の脅威を取り除く活動が必要である（グローバルガバナンス・人間の安全保障）
- ✓ 市民や NGO も加わる必要がある
- ✓ 将来世代のエージェンシーとしての判断基準
- ✓ 緩和と適応の双方への配慮